



昔ながらの手づくり品を生み出し、追求する
「ものづくり」にたずさわる 6人のものがたり

鉄 本郷重彦さん
株式会社ナルディック鉄工房

鉄 は素材そのものが呼吸しており、手入れて使うことで美しさが保たれる特長的な素材です。物に対する関わりが希薄な今の時代の中に鉄を生活の中に取り入れることで、物を大切に作る気持ちがいい意味でよみがえり、親世代が作ったものを子どもが引き継いで使うなど、物を通していろいろな人の思いなどが伝わるのではないかと思います。また、物を作って楽しむだけでなく、物のもっている本質みたいなものを、作品を通してメッセージとして伝えていきたいですね。



鉄製品を作っているナルディック鉄工房では週に3回工房を開けています。1回の参加費2,000円で、会社から出る端材を素材として自由に使ってもらって、会員さんが楽しんで生活の中に取り入れられる作品を次々と生みだしています。

草 山元義宣さん
草津焼・淡海陶芸研究所

草 津焼は、昔は湖の底だった土を約1200℃で12時間程焼き、その熱と圧力をかけることで、岩盤質で水を吸わない焼き物になります。熱を加えても割れず電子レンジにかけられるのは、草津焼の特長である土の特性と製法によるものなんです。それを活かして、チームでいろいろな商品開発を行っています。素材をまず第一に、対応力とチームメイトを増やしていきたいですね。



草津では鉄分を多く含んだ大小さまざまな粒子が混ざった土が採れ、この土を使った焼き物を「草津焼」としています。市内でまだまだ里山が残っている岡本町に「草津焼」の淡海陶芸研究所があります。

吹 八木俊之さん
吹きガラス工房 わかくさ

吹 きガラス自体の歴史は古いですが、近代的なガラスの歴史は浅く、自由に表現できる要素もまだまだあります。それが他の伝統的な工芸品とは違うところかもしれません。さまざまな可能性があるという点も含め、たくさんの方に体験してもらいたいですね。大人の方ももちろんですが、子どもさんには気に入ったら何度も体験に来ていただきたいですね。



さまざまな色や形の沢山のオリジナル商品が並ぶ「吹きガラス工房わかくさ」。小学生から参加できる吹きガラス体験やじっくり作品を作りたい方向けの教室、万華鏡作りワークショップなども開催されています。

瓢 瀬川裕海さん
株式会社 瀬川元 瓢泉堂

瓢 箆を作るのはなかなか骨の折れる作業ですが、こういうものが昔からあるという事や、草津伝統の技、それらを伝えていく事を大切にしていきたいと思います。素材としても販売していますから、大きい瓢箆でスピーカーを作る、マラカスや笛などの楽器にするなどと購入される方もいらっしゃいました。これが気に入った!みたいな方に買っていただきたいですね。



昔から瓢箆は六瓢(無病)息災の縁起物として親しまれてきました。草津で唯一残る瓢箆の専門店「瓢泉堂」には一つ一つ形や表情が違う瓢箆が並びます。

草 中原真紀さん
和紙工房 わかたけ

草 紙100%の紙の裁断くずを原材料として戻し、新たに手漉き和紙として再生させています。作業所では手漉きの体験もできますし、出張ワークショップもしています。昔は建具や傘、灯りなど、生活の中にたくさん紙がありました。琵琶湖の環境を守る作用がある葦を使用した和紙を通じて、紙や環境の事を見直すきっかけになればいいなと思っています。



障害により就労が困難な人に働く場を提供するとともに、知識及び能力向上の為の支援を行っている若竹作業所では、取り組みの一環として草津和紙を作成されています。

木 青木義雄さん
ふうじゅこうしや 風樹工舎

木 工は一定のテンションで一つ一つ仕事をこなしていきます。芸術作品を作るのではなく、仕事ですから。木を加工する時に真っ直ぐに刃物が動かしている事、加工された木を見てもそれが平面かが分かる事、そういう基準ができているというのが基本です。作品に向き合うのと同じくらい、使う道具や場所への気配りも大切です。



小さな木工品から家具の製作や、寺社の修繕まで手がける風樹工舎。市販の木工品に物足りなさを感じたら、ご相談してみてください。

お問い合わせ先

●草津市観光物産協会

〒525-8588
草津市草津三丁目13番30号

TEL 077-566-3219

HPアドレス

<http://kanko-kusatsu.com>



こちらのQRコードを読み取り、アクセスしてください。